

エペソ人への手紙

第一章

一 神の御旨によるキリスト・イエスの使徒パウロから、エペソにいる、キリスト・イエスにあつて忠実な聖徒たちへ。

二 わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

三 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあつて、天上で霊のもろもろの祝福をもつて、わたしたちを祝福し、四 みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあつてわたしたちを選び、五 わたしたちに、イエス・キリストによつて神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従ひ、愛のうちにあらかじめ定めて下さったのである。六 これは、その愛する御子によつて賜わった栄光ある恵みを、わたしたちがほめたたえるためである。七 わたしたちは、御子にあつて、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。八 神はその恵みをさらに増し加えて、あらゆる知恵と悟りとをわたしたちに賜わり、九 御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従つて、わたしたちに示して下さったのである。

一〇 それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによつて、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあつて一つに帰せしめようとされたのである。二 わたしたちは、御旨の欲するままにすべての事をなさるかたの目的の下に、キリストにあつてあらかじめ定められ、神の民として選ばれたのである。三 それは、早くからキリストに望みをおいてゐるわたしたちが、神の栄光をほめたたえる者となるためである。四 あなたがたもまた、キリストにあつて、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。五 この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であつて、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

六 こういうわけで、わたしも、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを耳にし、七 わたしの祈のたびごとにあなたがたを覚えて、絶えずあなたがたのために感謝している。八 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わつて神を認めさせ、九 あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていだいてゐる望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、一〇 また、神の力強い活動によつて働

く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。二神はその力をキリストのうちに働かせて、彼を死人の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右に座せしめ、三彼を、すべての支配、権威、権力、権勢の上におき、また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名の上におかれたのである。三そして、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして教会に与えられた。三この教会はキリストのからだであって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。

第二章 一さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって、二かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って、歩いていたのである。三また、わたしたちもみな、かつては彼らの中にいて、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。四しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、五罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、恵みによるのである——六キリスト・イエスに

あつて、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。七それは、キリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な富を、きたるべき世々に示すためであつた。八あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。九それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。九決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。一〇わたしたちは神の作品であつて、良い行いをするように、キリスト・イエスにあつて造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

二だから、記憶しておきなさい。あなたがたは以前には、肉によれば異邦人であつて、手で行った肉の割礼ある者と称せられる人々からは、無割礼の者と呼ばれており、三またその当時は、キリストを知らず、イスラエルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であつた。三ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあつて、キリストの血によって近いものとなつたのである。一四キリストはわたしたちの平和であつて、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、二五数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それ

は、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、二十十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまつたのである。一七それから彼は、こられた上で、遠く離れてゐるあなたがたに平和を宣べ伝え、また近くにいる者たちにも平和を宣べ伝えられたのである。一八というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中にあつて、父のみもとに近づくことができるからである。一九そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。二〇またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであつて、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。二一このキリストにあつて、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、二三そしてあなたがたも、主にあつて共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。

第三章 一 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となつてゐるこのパウロ——ニわたしがあなたがたのために神から賜つた恵みの務について、あなたがたはたしかに聞いたであらう。三すなわち、すでに簡単に書きおक्तつたように、わたしは啓示によつて奥義を知らされたのである。四あなたがたはそれを読めば、キリストの奥義をわたしがどう理解してゐるかがわかる。五この奥義は、いまは、御霊に

よつて彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されてゐるが、前の時代には、人の子らに対して、そのように知らされてはいなかつたのである。六それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあつて、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。七わたしは、神の力がわたしに働いて、自分に与えられた神の恵みの賜物により、福音の僕とされたのである。八すなわち、聖徒たちのうちで最も小さい者であるわたしにこの恵みが与えられたが、それは、キリストの無尽蔵の富を異邦人に宣べ伝え、九更にまた、万物の造り主である神の中に世々隠されてゐた奥義にあずかる務がどんなものであるかを、明らかに示すためである。一〇それは今、天上にあるものもろの支配や權威が、教会をとおして、神の多種多様な知恵を知るに至るためであつて、二わたしたちの主キリスト・イエスにあつて実現された神の永遠の目的にそうものである。三この主キリストにあつて、わたしたちは、彼に対する信仰によつて、確信をもつて大胆に神に近づくことができるのである。四だから、あなたがたのためにわたしが受けてゐる患難を見て、落胆しないでいてもらいたい。わたしの患難は、あなたがたの光栄なのである。

二四 こういうわけで、わたしはひざをかがめて、二五天上にあり地上にあつて「父」と呼ばれてゐるあらゆるもの

の源なる父に祈る。二六どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、二七また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、二八すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、二九また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。

三〇どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、三一教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アメン。

第四章 一さて、主にある囚人であるわたしは、

あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、二できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、三平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。四からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。五主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。六すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つ

である。七しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。八そこで、こう言われている、

「彼は高いところに上った時、

とりこを捕えて引き行き、
人々に賜物を分け与えた」。

九さて「上った」と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではない。一〇降りてこられた者自身は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もろもろの天の上にまで上られたかたなのである。二そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。三それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、四わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。五こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、六愛にあつて真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。七また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、

からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。

二七そこで、わたしは主にあっておごそかに勧める。あなたがたは今後、異邦人がむなししい心で歩いているように歩いてはならない。二八彼らの知力は暗くなり、その内なる無知と心の硬化により、神のいのちから遠く離れ、九自ら無感覚になって、ほしいままにあらゆる不潔な行いをして、放縱に身をゆだねている。三〇しかしあなたがたは、そのようにキリストに学んだのではなかった。三一あなたがたはたしかに彼に聞き、彼にあって教えられて、イエスにある真理をそのまま学んだはずである。三すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、三三心の深みまで新たにされて、三四真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。

三五 こういうわけだから、あなたがたは偽りを捨てて、おのおの隣り人に対して、真実を語りなさい。わたしは、お互に肢体なのであるから。三六怒ることがあっても、罪を犯してはならない。三七また、悪魔に機会を与えてようであってはならない。三八盗んだ者は、今後、盗んではならない。はいけない。三九盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをせなさい。四〇悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞

いている者の益になるようにしなさい。四一神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。四二すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。四三互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。

第五章 一こうして、あなたがたは、神に愛されてゐる子供として、神にならう者になりなさい。二また愛のうちに歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。三また、不品行といろんな汚れや食欲などを、聖徒にふさわしく、あなたがたの間では、口にすることさえしてはならない。四また、卑しい言葉と愚かな話やみだらな冗談を避けなさい。これらは、よろしくない事である。それよりは、むしろ感謝をささげなさい。五あなたがたは、よく知っておかねばならない。すべて不品行な者、汚れたことをする者、食欲な者、すなわち、偶像を礼拝する者は、キリストと神との国をつぐことができない。六あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない。これらのことから、神の怒りは不従順の子らに下るのである。七だから、彼らの仲間になつてはいけない。八あなたがたは、以前はやみ

であつたが、今は主にあって光となつてゐる。光の子らしく歩きなさい——九光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである——一〇主に喜ばれるものがないのであるかを、わきまえ知りなさい。二実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。三彼らが隠れて行つてゐることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。四しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかにになる。五明らかにされたものは皆、光となるのである。だから、こう書いてある、

「眠つてゐる者よ、起きなさい。」

死人のなかから、立ち上がりなさい。

そうすれば、キリストがあなたを照すであらう。

一五そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにはなく、賢い者のように歩き、一六今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。

一七だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。一八酒に酔つてはいけな。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、一九詩とさんびと霊の歌をもつて語り合い、主にむかつて心からさんびの歌をうたいなさい。二〇そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によつて、父なる神に感謝し、三キリストに対する恐れ的心をもつて、互に仕え合うべきである。

三妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えな

い。三キリストが教会のかしらであつて、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。四そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。五夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。六キリストがそうなさつたのは、水で洗うことにより、言葉によつて、教会をきよめて聖なるものとするためであり、七また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。八それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。九自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。かえつて、キリストが教会になさつたようにして、おのれを育て養うのが常である。一〇わたしたちは、キリストのからだの肢体なのである。一一「それゆゑに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」。一二この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしてゐる。一三いづれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のよう愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。

第六章

一子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。二あなたの父と母とを敬え。これが第一の戒めであつて、次の約束がそれ

についている、^三「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。^四「父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。」

^五「僕たる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。」^六人へつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い、^七人にではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。^八あなたがたが知っているとおり、だれでも良いことを行えば、僕であれ、自由人であれ、それに相当する報いを、それぞれ主から受けるであろう。^九主人たる者よ。僕たちに対して、同様にしなさい。おどすことを、してはならない。あなたがたが知っているとおり、彼らとあなたがたの主は天にいますのであり、かつ人をかたより見ることをなさらないのである。

^{一〇}最後に言う。主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。^{一一}悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武器で身を固めなさい。^{一二}わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。^{一三}それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武器を身につけなさい。^{一四}すなわち、立って真理の帯を腰に

しめ、正義の胸当てを胸につけ、^{一五}平和の福音の備えを足にはき、^{一六}その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもつて、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。^{一七}また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。^{一八}絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。^{一九}また、わたしが口を開くときに語るべき言葉を賜わり、大胆に福音の奥義を明らかに示しうるように、わたしのためにも祈ってほしい。^{二〇}わたしはこの福音のための使節であり、そして鎖につながれているのであるが、つながれていても、語るべき時には大胆に語れるように祈ってほしい。

^{二一}わたしがどういう様子か、何をしているかを、あなたがたに知ってもらうために、主にあつて忠実に仕えている愛する兄弟テキコが、いっさいの事を報告するであろう。^{二二}彼をあなたがたのもとに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるようになるためなのである。

^{二三}父なる神とわたしたちの主イエス・キリストから平安ならびに信仰に伴う愛が、兄弟たちにあるように。^{二四}変らない真実をもつて、わたしたちの主イエス・キリストを愛するすべての人々に、恵みがあるように。